

公共労速報 No.241

2016年10月25日 公立学校共済組合職員労働組合 TEL 03-3872-6175

いのちを守る国民集会3000人

社会保障の充実、医師・看護師・介護職員の大幅増員、戦争法廃止などを求めて20日、「憲法・いのち・社会保障まもる国民集会」が東京・日比谷野外音楽堂で開かれ、全国から3000人以上が参加しました。公共労からは前日の団交から引き続いての参加など4名の参加。「医師・看護師増やせ」「社会保障を充実しろ」などとコールをしながら銀座パレードにも参加しました。

政治に無関係ではいられない

主催者あいさつに立った、医労連の中野委員長は、TPPは無保険の医療の拡大や、高薬価を招く危険なものであることを告発し、「政治に無関心でいられても、無関係ではいられない。平和をまもれ、いのちまもれの声をあげよう」と訴えました。



厚労省に向かって、「看護師増やせー！」と声をあげる参加者

「笑顔で看護がしたい」看護師増やして！

リレートークでは各団体から発言がありました。医労連からは看護師さんが発言。認知症の患者が増え1日中目が離せない状況を告発し、「患者さんの笑顔が見たい、笑顔で看護がしたい」と看護師の増員を訴えました。医師の団体からは、貧困の広がりがある患者の医療抑制につながっていると、医療費負担増にストップをかける運動をよびかけました。

社会保障を守るためにあきらめずにたたかい続けよう！



講演は「下流老人」の著者の藤田孝典さんでした。社会保障はたたかひの連続であったことを紹介。「我々の強みは現場を知っていること。現状を広く知らせていくことが大事。社会保障を守るために一緒にたたかいていきましょう！」とエールをいただきました。



秋晴れの澄み切った空に響くコール。沿道からは手を振ってくれたり写真を撮る方も！